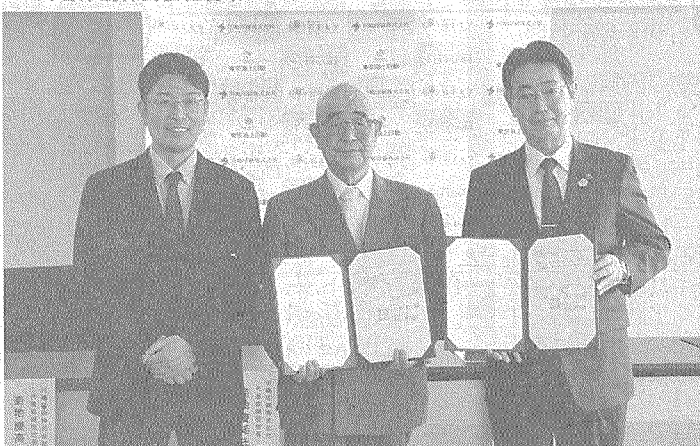


新しく赴任する女性教員を支援する協定に調印した
小川学長と菊地慶矩会長、慶高社長（右から）

川嶋印刷株式会社創業111年記念菊地ロクフェローシップ協定調印式



と川嶋印刷
岩手大

女性教員ら支援へ

フェローシップ協定締結

岩手大（小川智学長）と川嶋印刷（本社・平泉町）は30日、新たに同大に赴任する文系の女性教員・研究者に対し奨励金を授与するフェローシップ協定を締結した。同大で締結式が行われ、小川学長と菊地慶矩会長、息子の慶高社長が協定書を手交した。

同社は、岩手大が女性活躍とダイバーシティー（多様な人材活用）を目的として2021年に設立した「すずらん基金」に500万円を寄贈。フェローシップはこの寄付金を原資として新設された。同大でのフェローシップ協定は初の取り組み。同社の創業者で菊地会長の祖母である菊地ロク氏（1899-1976）の名前を掲げて、「川嶋印刷株式会

社創業111年記念菊地ロクフェローシップ」とした。奨励金は1人当たり年間10万円。授与期間は3年間。授与された女性教員は川嶋印刷の同意に基づき、研究発表にフェローシップ名を明記し、奨励金の使途報告を同大ダイバーシティー推進室に行う。3月現在、同大の常勤教員のうち女性教員

の比率は17・5%。2027年までに22%へ増やす計画を進めている。小川学長は「奨励金の存在により、本学赴任へのインセンティブ（動機付け）になる」と期待を込める。菊地ロク氏は1930（昭和5）年、一関市で川嶋印刷の礎を築いた。菊地会長は「祖母は22歳で後家さんになり、乳飲み子を抱えながらマイナスからスタートした。ロクさんにお世話になったという話を山ほど聞いた。私

もおばあちゃん子だった。仕事に対する考え方も教わった」と目を細める。「このごろは『女性活躍』と言われ過ぎて、いる感もある。ロクさ

んが土台を作り、うちには昔から女性社員が活躍している。女性には本来能力がある。手助けになればいい」と期待していた。